

## 訂正

## 訂正

歯のマイクロウェアに基づく採食生態推定法の進展と三次元マイクロウェア形状測定. 山田英佑・久保麦野・久保 泰・甲能直樹, 2017. *Fossils*, (102), 73–85.山田英佑<sup>\*,\*\*,\*</sup>・久保麦野<sup>\*\*</sup>・久保 泰<sup>\*\*\*</sup>・甲能直樹<sup>\*\*\*\*,\*</sup>

<sup>\*</sup>総合研究大学院大学先導科学研究科生命共生体進化学専攻・<sup>\*\*</sup>東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻・<sup>\*\*\*</sup>東京大学総合研究博物館・<sup>\*\*\*\*</sup>国立科学博物館地学研究部生命進化史研究室・<sup>\*\*\*\*\*</sup>筑波大学大学院生命環境科学研究科地球進化科学専攻

## Corrigendum

Reconstruction of feeding ecology based on tooth microwear: historical review and recent progress using three dimensional microtexture analysis: Yamada, E., Kubo, M. O., Kubo, T. and Kohno, N., 2017. *Fossils* (*Palaeontological Society of Japan*), No. 102, 73–85.Eisuke Yamada<sup>\*,\*\*,\*</sup>, Mugino O. Kubo<sup>\*\*</sup>, Tai Kubo<sup>\*\*\*</sup> and Naoki Kohno<sup>\*\*\*\*,\*</sup>

<sup>\*</sup>Department of Evolutionary Studies of Biosystems, School of Advanced Sciences, SOKENDAI (The Graduate University for Advanced Studies), Shonan Village, Hayama, Kanagawa 240-0193, Japan (eyamada1220@gmail.com); <sup>\*\*</sup>Department of Natural Environmental Studies, Graduate School of Frontier Sciences, The University of Tokyo, Kashiwanoha 5-1-5, Kashiwa, Chiba 277-8563, Japan; <sup>\*\*\*</sup>The University Museum, The University of Tokyo, Hongo 7-3-1, Bunkyo-ku, Tokyo 113-0033, Japan; <sup>\*\*\*\*</sup>Department of Geology and Paleontology, National Museum of Nature and Science, Amakubo 4-1-1, Tsukuba, Ibaraki 305-0005, Japan; <sup>\*\*\*\*\*</sup> Graduate School of Life and Environmental Sciences, University of Tsukuba, Tennodai, 1-1-1, Tsukuba, Ibaraki 305-8752, Japan

上記論文の以下3点について、不正確な記述および図の誤りが確認されたため、訂正する。

①本文中のISOパラメータの定義 (p. 79) を以下の通り訂正する。当初は、従来のマイクロウェア形質との対応を念頭にして、各パラメータの検出する表面性状を凹部に限り記述した。しかし、これらのパラメータは、正確には高低差の検出評価に用いられるため必ずしも凹部の形状のみを検出しているとはいえない。著者全員による協議の結果、正確な定義のみを示すことが適切と判断した。

1. Sa (図6A) : 平均面に対する、凹部および凸部の距離の平均値。値が大きいほど、高低差の大きい表面形状を示す。
2. Smc (図6C) : ある高さ以上の表面積が全体に占める割合 (以下、負荷面積率) が10%となる時の、基準表面からの高さ。
3. Sxp (図6C) : 負荷面積率50%における高さとの差と97.5%における高さの差。
4. Vmc (図6C) : 負荷面積率10%における実体体積と

80%における実体体積の差。

5. Vv (図6C) : 負荷面積率10%における空隙容積。
6. Vvc (図6C) : 負荷面積率10%における空隙容積と80%における空隙容積との差。
7. Vvw (図6C) : 負荷面積率80%における谷部の空隙容積。
8. Str (図6B) : 表面形状の波長の減衰周期を各方向について算出することで求められる。0から1の値をとり、0に近い場合は表面形状が線状の規則性をもち、1に近い場合はそのような規則性をもたないことを示す。

②①と同様の理由から、本文中の記述 (p. 80) を以下の通り訂正する。

訂正前: この結果は、白歯表面の起伏がより激しく、特に凹部の容積増加が著しくなることを示唆している

訂正後: この結果は、白歯表面の起伏がより激しくなることを示唆している。

③各パラメータが示す表面性状の概念図 (p. 80, 図6C) を、以下の通り訂正する。

体積および空隙容積パラメータの凡例に誤りが確認された。また、 $S_{xp}$  および  $S_{mc}$  については、訂正前の図および説明文では「高さ」に基づき  $S_{mc}$  と  $S_{xp}$  の位置を記述しているが、正しくは「負荷面積率に基づき算出された高さ」である。さらに、訂正前の図では、両パラメータの上限の位置が同一と示されており、その説明文において「なお、実際の  $S_{mc}$  と  $S_{xp}$  の算出に用いる高さは異なる」と記述しているが、正しくは、 $S_{mc}$  は「負荷面積率が10%となる時の、基準表面からの高さ」、 $S_{xp}$  は「負荷面積率50%における高さ」と97.5%における高さの差」であり、それぞれの定義に基づいて図示されなければならない。そこで、凡例の訂正に加え、縦軸の右側に「負荷面積率」を併記し、これに基づいて  $S_{xp}$  と  $S_{mc}$  を図示

し直した。

また図6Cの訂正にともない、説明文を以下の通り訂正する。

訂正前：C, 機能パラメータ ( $S_{mc}$ ,  $S_{xp}$ ) および体積パラメータ ( $V_{mc}$ ,  $V_{vc}$ ,  $V_v$ ,  $V_{vv}$ )。定義は本文を参照。便宜上、立体断面を示す。なお、実際の  $S_{mc}$  と  $S_{xp}$  の算出に用いる高さは異なる。

訂正後：C, 機能パラメータ ( $S_{mc}$ ,  $S_{xp}$ ) および体積パラメータ ( $V_{mc}$ ,  $V_{vc}$ ,  $V_v$ ,  $V_{vv}$ )。定義は本文を参照。便宜上、三次元地形の断面図を示す。

(2017年11月11日受付, 2017年12月12日受理)

